

巻頭言

チーム医療の充実に向けて

新年度となり当院も多くの新しい職員を迎えました。彼らは現在の医療は多職種によるチーム医療であることを学んでいます。そこで今回は専門的な知識と技能を持ち病院内で横断的に活躍する、認定看護師についてお話しします。

認定看護師資格は、看護師資格を取得した後に最低5年以上の実務を経験し、このうち3年以上は認定の看護分野で研修を積んだ上で、再び教育機関に入り日本看護協会の試験に合格して初めて取得できます。認定看護師には多くの種類がありますが、今回はその中で「皮膚・排泄ケア」「摂食・嚥下障害看護」「感染管理」についてご紹介します。

まずは皮膚・排泄ケア認定看護師です。ストーマ（人工肛門、人工ぼうこう）ケアに加え、皮膚のトラブルやキズの発生を予防するスキンケアを実施し、また創傷を早期に治すための管理方法や寝床環境を整える看護を行います。当院では、褥瘡（じょくそう）、いわゆる床ずれの対策チームの一員としても活躍しています。病棟看護師は入院時にすべての患者さんに対し褥瘡の発生リスクをチェックし、リスクの高い患者さんや、すでに褥瘡のある患者さんについては、即日認定看護師に相談しアドバイスを貰います。褥瘡対策チームはこのような患者さんを週1回診察し専門的なアドバイスを継続的に行っています。

次に、摂食・嚥下（えんげ）障害看護認定看護師です。病棟看護師は入院患者さんの摂食・嚥下、すなわち飲み込みについての評価も行い、ケアが必要と判断すると摂食・嚥下障害看護認定看護師に連絡します。認定看護師は摂食・嚥下チームの一員として摂食・嚥下機能の評価、口腔ケアの方法、食事内容、食事摂取方法を判断し、誤えん性肺炎（食べ物や唾液が気道に入ること、細菌が肺に入り込んで起こる肺炎）、窒息、低栄養、脱水などの予防や改善を病棟看護師と共有して計画的なケアができるように支援しています。

最後に感染管理認定看護師です。当院では、病院感染管理者として、院内全部署の感染症発生状況の把握や感染防止対策の指導、感染予防・管理システムの構築、院内研修の開催などを担っています。また、感染制御チームと抗菌薬（抗生物質）の適正使用支援チームの一員として定期的に院内ラウンドを行って、現場改善に関する相談の対応や、現場の教育・啓発、感染症の異常発生の原因分析と制圧にあたるなど、新型コロナウイルス感染症との戦いのなかでも司令塔の立場にあります。

当院は今年度もこのような認定看護師が活発に活動しながら、専門医療チームと病棟の医療チームが更に協力し合って、より安全で質の高い医療を提供できるよう努めて参ります。3年を超える新型コロナウイルス感染症との戦いの中で、患者の皆さんや地域の医療関係者から多くのご協力を頂き感謝しております。病院の中には免疫の低い患者さんも多いため、今後も院内ではマスク着用や手指消毒の徹底にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



＜副院長＞

＜坂下 暁子 教授＞

- P1. 【巻頭言】 チーム医療の充実に向けて
- P2～3. 【医学講座コーナー】 「ロボット手術導入しました」
- P4. 【お知らせ】 春期市民公開講座開催・小児外科「付き添い入院」再開・4月度がんサロン開催のお知らせ
- P5. 患者さんからのご意見・ご要望
- P6～7. 【お知らせ】 医師の配属・退職・異動について
- P8. 【お知らせ】 患者満足度調査を実施しました
- 【編集後記】



【医学講座コーナー】「ロボット手術導入しました」

(消化器センター 教授 石田文生)

新しい手術システム

昭和大学横浜市北部病院では、本年 1 月に待望の“ロボット手術”を開始致しました！
「のぞみうる最高の医療をおこなう」

これは北部病院が開設以来掲げてきたモットー（理念）です。そして、それを実現するための手段の一つが、ダビンチシステムによるロボット手術です。

世界で初めて胃がん手術、直腸手術（もちろん開腹手術）が行われたのは、今から 100 年余り前のこと（胃切除：1881 年オーストリア、直腸切除：1908 年イギリス）でした。それから 1 世紀を過ぎ、1990 年代に腹腔鏡手術、胸腔鏡手術が開発されて、手術の新時代に入りました。

それまで体に大きな傷が開けられて、病に侵されている場所、いわゆる病巣が切除されていたのが、わずか 2-4 センチメートルの傷といくつかの数ミリメートルの穴を開けることで同じことができるようになりました。これによって、手術による体への侵襲（負担）は飛躍的に小さくなり、小さなキズ、少ない出血、少ない痛みでの手術が可能になりました。当院では 2001 年の開院より腹腔鏡手術、胸腔鏡手術を積極的に進める施設として知られ、現在に至っています。

「最小限の侵襲で手術をする」をモットーに各診療科が腹腔鏡手術、胸腔鏡手術を取り入れて研さんを重ねてまいりました。そして手術器械、手術法はさらに進歩して、たどり着いた究極の手術が「ロボット手術」です。

ロボット手術ってなに？

「ロボット手術」とは、外科医の“目”であるスコープ（カメラ）と“手”であるアームに装着された手術器械を、小さな傷からお腹、あるいは胸に入れて、執刀医師が操作する手の動きを正確に、さらには震えなどの無駄な操作が全く入らない精密な動きとして行えるシステムです。



写真 1



写真 2



【医学講座コーナー】「ロボット手術導入しました」

(消化器センター 教授 石田文生)

写真に示すように全身麻酔がかかった状態の患者さんにロボットシステム（写真 1）が装着されます。この器械に操作の信号を出すシステム（コンソールといいます）（写真 2）が別にあって、執刀医師はこのコンソールに座って高画質の立体画像（3次元画像）を見て、病変の状況を見極めて、ハンドルを動かして手術を行います。ロボットはその信号を受け取って、執刀医師の手の動きを正確に、さらには震えなどを補正してピタリと狂いのない操作を行ってくれます。



写真 3

腹腔鏡手術ではピンセットのような器械で臓器を持って、電気や超音波メスで組織を切って手術を行いますが、ロボット手術ではピンセットやメスの先端が手首のようにあらゆる方向に曲がって（写真 3）、複雑で繊細な手術操作を行うことができます。これまでの手術では届かなかった狭い空間や、横を向いた病巣に対してもピンセットとメスの先端が正確にたどり着いて、見事に手術を行えるのです。

ロボット手術は、ロボットが何かを考えて自動的に進むのではなく、あくまでも執刀医師が見て、判断し、考えて、手を動かします。その作業をより有効に実現してくれるものが、このロボットシステムです。

消化器センターでは日々、これらの手術技術を高めるためにチーム一丸となって研究、研鑽、教育に努めています。厳しい審査によって合格とされている内視鏡外科学会技術認定取得者が、北部病院消化器センターには 9 名在籍（2023 年 2 月現在）しています。ひとつひとつの手術にあたっては、検査データ、画像を内科、外科チームが皆で検討して術式を決めて、ベストの手術チームを組んで手術を行っています。

特別な手術なの？

いいえ、保険診療に認められた治療法です。ただし十分な経験と高度な技術が必要とされます。

ロボット手術の導入には厳しい資格が設定されていて、それらを満たした施設、手術チームでなければ認められていません。消化器センターではこれまでに蓄えた実績とチームの経験、業績などを審査いただきロボット手術導入に至りました。現在、大腸がんと胃がん手術を開始致しましたが、今後、対象手術を拡げて、治療を受けられる患者様に「のぞみうる最高の医療をおこなう」病院であり続けたいと思います。

【お知らせ】2023年春期市民公開講座開催のお知らせ

5月20日（土）15時00分～

オンライン配信 予約不要

第一部「前立腺がんってどんな病気？」

泌尿器科 富士幸藏 教授

第二部「食は医なり」

栄養科 中田美江 管理栄養士

【お知らせ】小児外科「付き添い入院」再開のお知らせ

こどもセンター小児外科では従来、母子分離不安が強い小児が入院する際、中央棟4B病棟で「付き添い入院」の受け入れを行っておりましたが、2020年から新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、中止しておりました。

しかしこの度、ご家族とお子様が安全に「付き添い入院」できる体制を整え、「付き添い入院」を再開する運びとなりました。詳細については、外来担当医又は外来スタッフまでお問い合わせいただきますようお願いいたします。



【お知らせ】4月度がんサロン開催のお知らせ

4月度 がん患者サロン「きぼう」

開催日時：4月20日（木）14：00～15：00（予定）

開催方法：オンライン開催

ミニレクチャー：「がん療養と緩和ケア・気持ちのつらさ」

（参加には事前申し込みが必要です。）

申し込み等詳細は右のQRコードからご覧ください。）

お問い合わせ：中央棟1階100番

総合サポートセンター 045-949-7000（代）



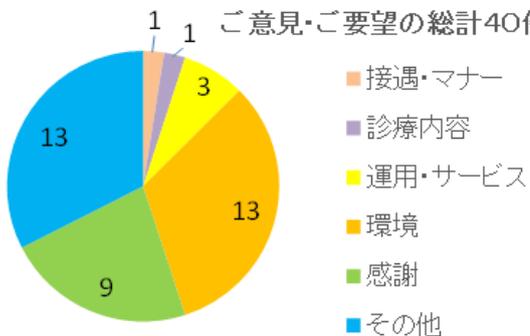
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより、ご意見箱にいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に、改善策を掲載させていただきました。

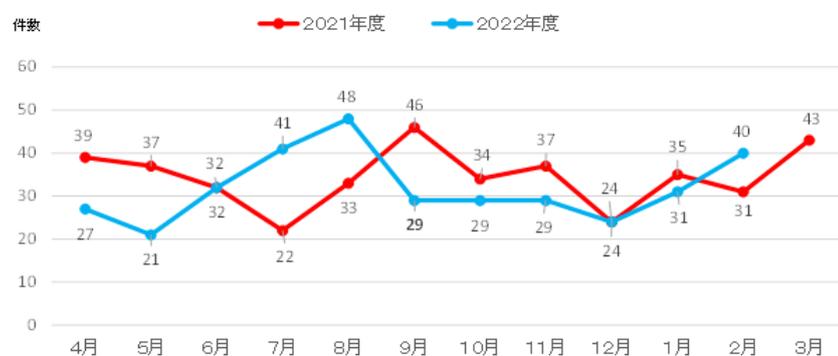
掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p>先日入院しましたが、シャワー室について以下の要望をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャワー室内をもう少し温かくして欲しい。 ・シャワー室内の時計を修理して欲しい。 	<p>この度はシャワー室の管理不備によってご迷惑をおかけし、大変申し訳ありませんでした。</p> <p>シャワー浴室のヒーターが故障していたため設定温度に達しておらず、現在、修理対応中です。</p> <p>時計については既に修理いたしました。</p> <p>今後は、脱衣所および浴室内の使用開始点検を徹底して実施してまいります。</p> <p>貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>(回答部署：管理課・看護部)</p>
<p>2階の冷水機の水が、ぬるくておいしくありません。</p> <p>メンテナンスを希望します。</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。</p> <p>中央棟2階の冷水機について、早速メンテナンスを実施し、改善しました。</p> <p>(回答部署：管理課)</p>

2023年2月
ご意見箱に投函された
ご意見・ご要望の総計40件



2021年度・2022年度
ご意見・ご要望の推移



新規配属（4月より）

【他施設から】

- | | | |
|--------|--------------|--------------|
| ・千島 隆司 | （乳腺外科・教授） | 横浜労災病院より |
| ・遠藤 翔太 | （こどもセンター・助教） | 埼玉県立小児医療センター |
| ・吉岡 和博 | （脳卒中科・助教） | 湘南鎌倉総合病院より |
| ・吉原 彩 | （内科・講師） | 東邦大学より |
| ・菅原 浩仁 | （内科・助教） | 天使病院より |

【附属施設から】

- | | | |
|---------|-----------------|----------|
| ・坂木 理 | （消化器センター・講師） | 藤が丘病院より |
| ・小沢 慶彰 | （消化器センター・助教） | 昭和大学病院より |
| ・辻田 裕昭 | （循環器内科・講師） | 昭和大学病院より |
| ・山口 将基 | （こどもセンター・助教） | 藤が丘病院より |
| ・笹森 大貴 | （メンタルケアセンター・講師） | 烏山病院より |
| ・柿沼 佑樹 | （内科・助教） | 東病院より |
| ・西見 慎一郎 | （内科・助教） | 東病院より |
| ・三倉 健太郎 | （内科・助教） | 藤が丘病院より |
| ・高畑 洋 | （内科・助教） | 昭和大学病院より |
| ・山本 将史 | （形成外科・助教） | 藤が丘病院より |
| ・小松 奈々 | （乳腺外科・助教） | 藤が丘病院より |
| ・明妻 裕孝 | （整形外科・助教） | 昭和大学病院より |
| ・仲村 将光 | （産婦人科・講師） | 昭和大学病院より |
| ・関谷 葵 | （産婦人科・助教） | 藤が丘病院より |
| ・青山 茉利香 | （産婦人科・助教） | 藤が丘病院より |
| ・駒瀬 奈央 | （産婦人科・助教） | 藤が丘病院より |
| ・藤澤 邦見 | （眼科・教授） | 東病院より |
| ・禅野 誠 | （眼科・講師） | 東病院より |
| ・石田 碧 | （麻酔科・助教） | 歯科病院より |
| ・梅本 理子 | （麻酔科・助教） | 昭和大学病院より |
| ・津島 佑季子 | （麻酔科・助教） | 藤が丘病院より |
| ・下野 史菜子 | （麻酔科・助教） | 藤が丘病院より |

退職・異動

【退職（3月まで）】

- ・登内 晶子 （消化器センター・助教）
- ・尾方 信仁 （こどもセンター・助教）
- ・高田 道哉 （内科・講師）
- ・小澁 正和 （内科・助教）
- ・大澤 基 （内科・助教）
- ・大塚 尚治 （外科・教授）
- ・薄井 隆宏 （眼科・准教授）
- ・岡田 洋介 （眼科・助教）
- ・木ノ内 万里子 （麻酔科・助教）

【異動（4月より）】

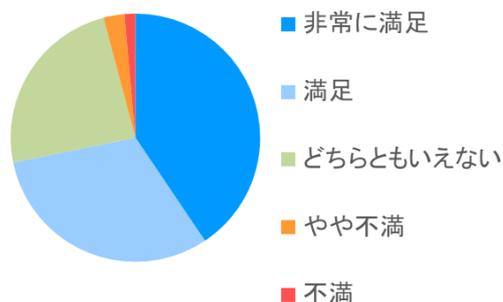
- | | | |
|---------|-----------------|-----------------|
| ・三澤 将史 | （消化器センター・講師） | 昭和大学病院へ |
| ・岡部 俊孝 | （循環器内科・講師） | 昭和大学病院へ |
| ・安部 マリア | （こどもセンター・助教） | 江東豊洲病院へ |
| ・前田 麻由 | （こどもセンター・助教） | 藤が丘病院へ |
| ・福永 奈津 | （こどもセンター・助教） | 昭和大学病院へ |
| ・徳増 卓宏 | （メンタルケアセンター・助教） | 烏山病院へ |
| ・飯坂 徹 | （内科・講師） | 藤が丘病院へ |
| ・石井 翔 | （内科・講師） | 昭和大学病院へ |
| ・屋城 俊洋 | （リハビリテーション科・助教） | 藤が丘リハビリテーション病院へ |
| ・長塚 正晃 | （産婦人科・教授） | 昭和大学助産学専攻科へ |
| ・下川 貴志 | （産婦人科・助教） | 藤が丘病院へ |
| ・牧野 吉朗 | （産婦人科・助教） | 藤が丘病院へ |
| ・黒川 一平 | （泌尿器科・助教） | 藤が丘病院へ |
| ・遠藤 貴美 | （眼科・講師） | 東病院へ |
| ・中村 圭介 | （麻酔科・助教） | 藤が丘病院へ |
| ・生方 雄平 | （麻酔科・助教） | 歯科病院へ |

【お知らせ】患者満足度調査を実施しました

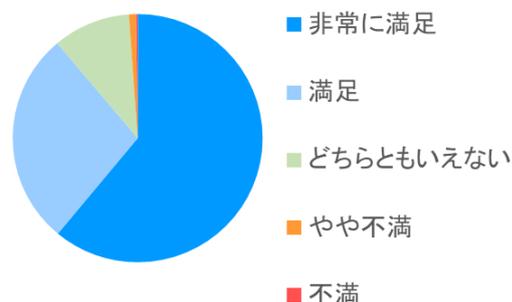
当院の院内サービス向上をめざして、提供されている院内サービスを患者さんがどのように感じているかを客観的に把握し、改善策を検討するために患者満足度調査を毎年実施しています。今回は外来患者さん 1,635 名、入院患者さん 456 名にご協力いただきました。ご回答いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

集計結果の詳細は、中央棟 1 階 130 番放射線科受付の横にある掲示板に掲載予定ですので、ぜひご覧ください。

【外来】今回の受診の満足度はいかがでしたか



【入院】入院中に受けた医療サービスの満足度はいかがでしたか



編集後記

抜けるような冬の蒼空から春の霞んだ、でも穏やかな青空の季節が到来しました。ここ数年、どこか気が詰まるような春でしたが、今春は少し穏やかに季節の移ろいを楽しむことが出来るでしょうか？街中では、新型コロナウイルス感染症に対する制限も緩和され、賑わいが戻っていますが、病院内では感染リスク、重症化リスクの高い患者さんも多く、感染対策は依然必要です。皆様にもご負担をお掛けすることも多いと思いますが、引き続きご協力の程、お願い申し上げます。

新年度が始まり、新研修医や新人スタッフに加えて臨床実習の学生が数多く院内を行き交います。まだまだ未熟でご迷惑をお掛けする場面も多々あるとは思いますが、未来の医療を担う彼らの教育・研修にご協力の程、心よりお願い申し上げます。

(広報委員会 委員長 緒方 浩頭)

北部病院だより 第178号
2023年4月1日発行

発行責任者 門倉 光隆 (昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 緒方 浩頭 (広報委員会 委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。